SOMPO ホールディングス
安心・安全・健康のテーマパーク

２０２０年９月３日
ＳＯＭＰＯホールディングス株式会社

「介護費用に関する調査」結果

～「入居型介護施設」への入居費用の平均は約 74 万円、「在宅介護」の初期費用の平均は約 64 万円～

ＳＯＭＰＯホールディングス株式会社（グループＣＥＯ執行役社長：櫻田　謙悟、以下「ＳＯＭＰＯホールディングス」）は、「介護費用に関する調査」を実施しました。その調査結果および専門家のコメントをご案内します。

１．調査の背景

厚生労働省が公表している「介護保険事業状況報告」によると、要介護（要支援）認定者数は、全国に約６６９．３万人存在しています（令和２年３月末）。今後、高齢化が進むとともに介護の問題は一層社会問題化することが見込まれ、より身近なものになってくることが想定されます。

そこで、介護状態別や介護形態別の、初期費用（最初にかかった経済的負担）に焦点をあて、介護を行う際の具体的な支出に関して調査を行いました。

２．調査概要

◆調査期間　：令和２年７月３日（金）から７月４日（土）
◆調査方法　：インターネット（PC、携帯電話モバイルサイト）
◆調査対象者：全国の３０代以上の男女
◆回答数　　：有効回答者数：１，０４７人

総数	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
1,047人	138人	224人	308人	377人
100.0%	13.2%	21.4%	29.4%	36.0%

３．調査結果のポイント

①約 7 割の方が要支援または要介護の認定を受けていないと回答しており、要支援または要介護の認定を受けていない方でも、介護を必要としていることが明確になった。(Q1)
②介護費用に関して「準備をしていなかった」との回答が約半数と多く、「準備していたよりも安かった」「準備していたとおりだった」との回答は約 3 割あることがわかった。(Q3)
③「入居型介護施設を利用」と「在宅での介護」を行っている割合はほぼ同程度であることがわかった。(Q4)
④「入居型介護施設」への入居費用の平均は約 74 万円であることがわかった。(Q5)
⑤「在宅介護」における初期費用の平均は約 64 万円であり、月々にかかる経済的負担は約 7.5 万円であることがわかった。(Q7,10)

４．調査結果

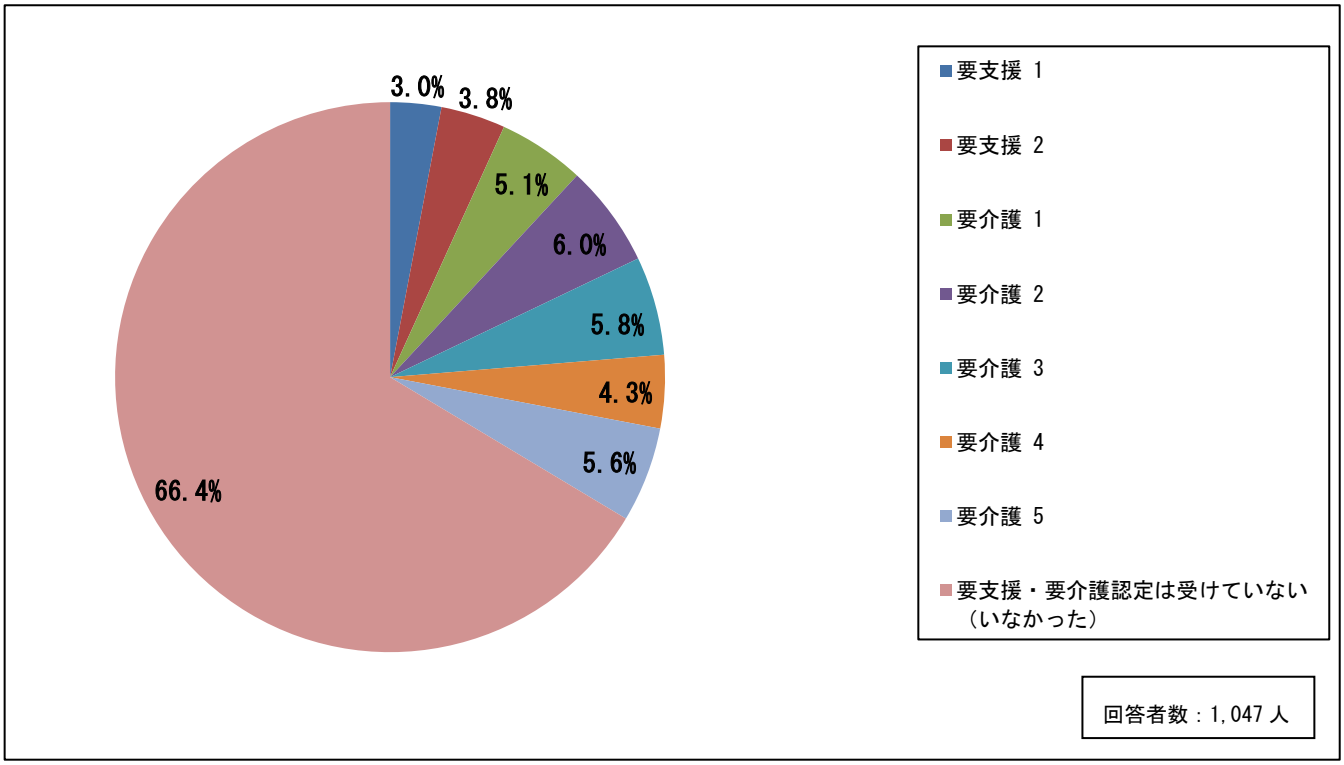
以下の Q1～11 は、「介護経験がある」と回答した方を対象に調査しました。設問、回答状況および分析結果は以下のとおりです。

回答割合（%）は、小数点第二位を四捨五入し、表記しています。

Q１．あなたが介護している（いた）ご家族の現在（当時）の介護状態に関してお答えください。

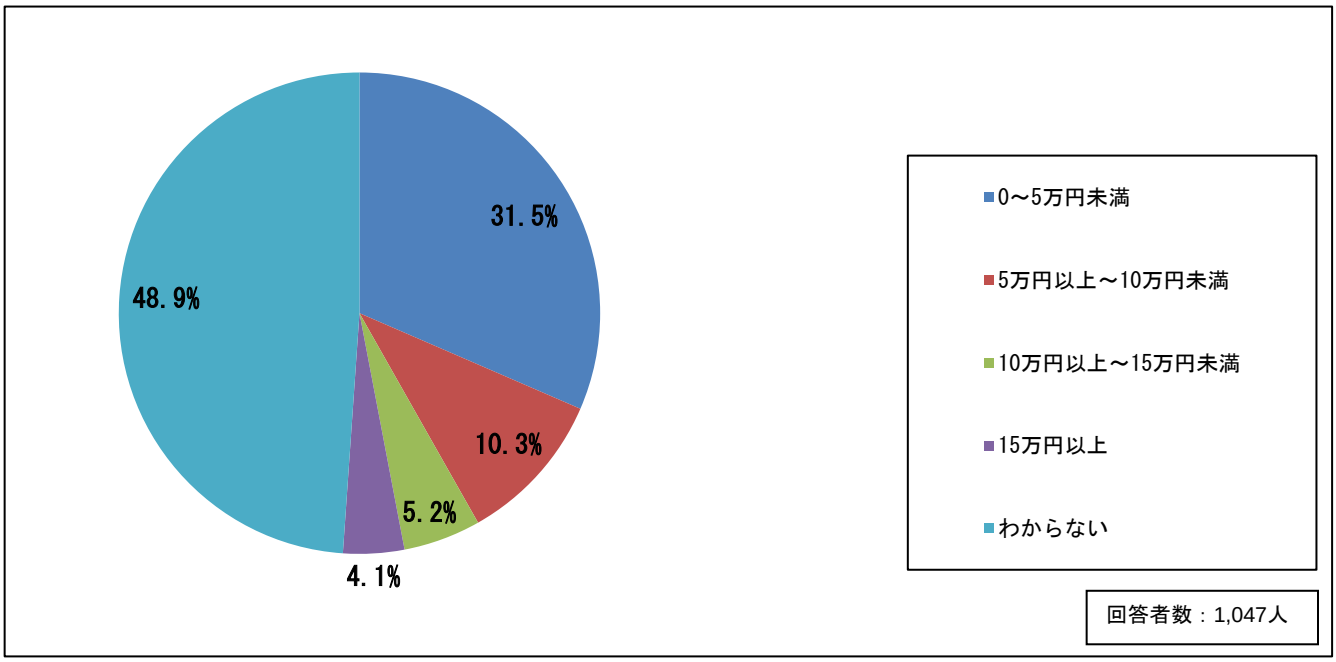
※複数名介護している（いた）場合は、最も重度である（あった）方の状態をお答えください。

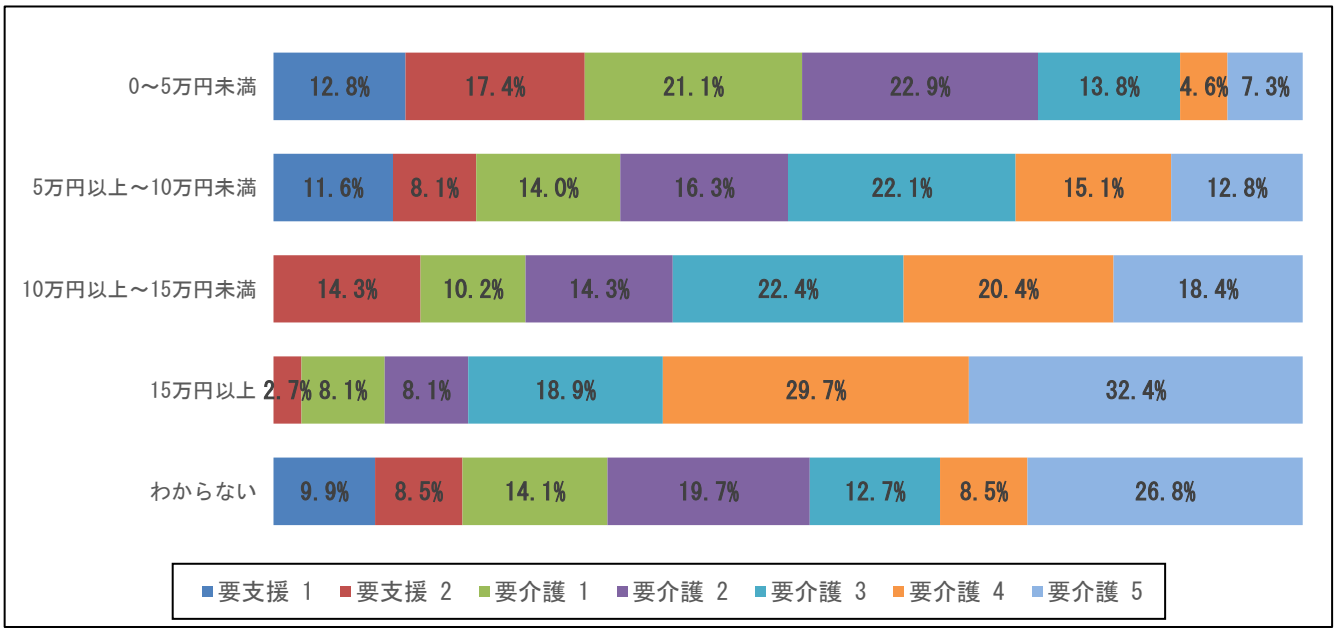
・約 7 割の方が要支援または要介護の認定を受けていないと回答しており、要支援または要介護の認定を受けていない方でも、介護を必要としていることが明確になりました。



Q2. Q1 の方の介護をしている（いた）際の、1 か月あたりの経済的負担に関してお答えください。

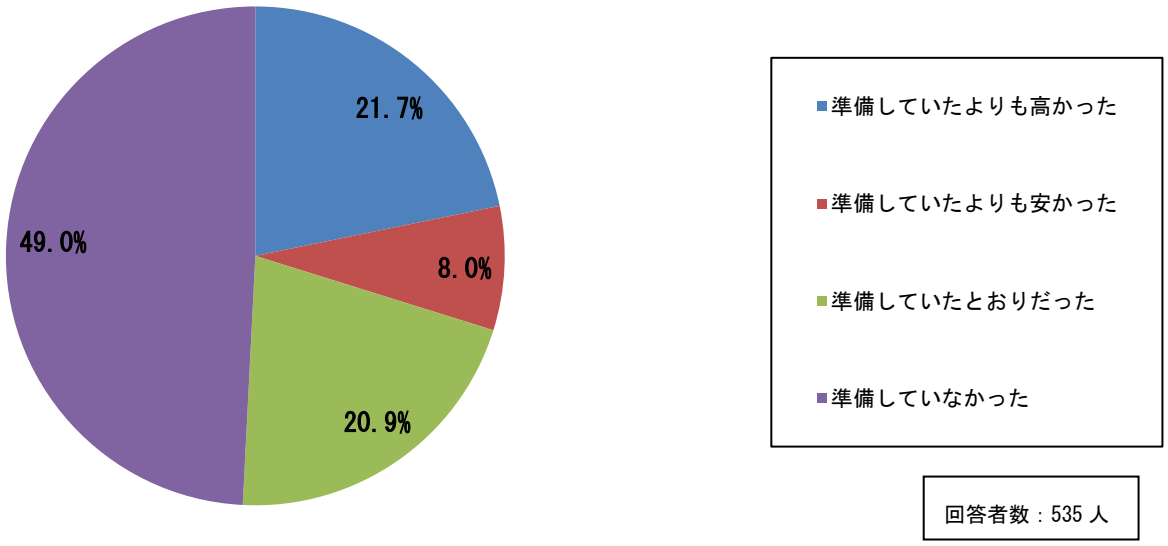
・約 3 割の方が 5 万円未満の経済的負担と回答しました。
・一方、約半数の方が経済的負担に関して「わからない」と回答しており、1 か月単位では、経済的負担についてあまり意識されていない傾向がわかりました。
・介護状態の進行に伴い、介護にかかる経済的負担も大きくなる傾向があることがわかりました。





Q3. 介護にかかる費用負担に関し、最もあてはまるものをお答えください。

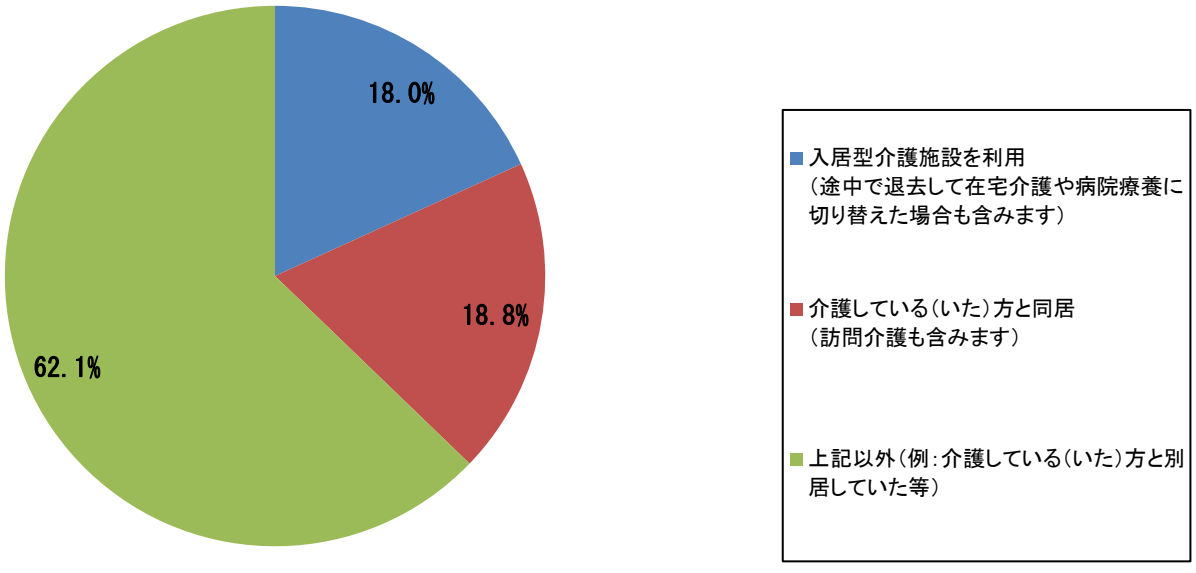
・「準備していたよりも安かった」と答えた方は約１割にとどまりました。
・「準備していたよりも高い」や「準備していなかった」との回答が約７割にのぼり、想定外の出費を余儀なくされた方が多いことがわかりました。



Q4. 介護の形態に関し、最もあてはまるものをお答えください。

※複数名介護している（いた）場合は、最も重度である（あった）方の状態をお答えください。

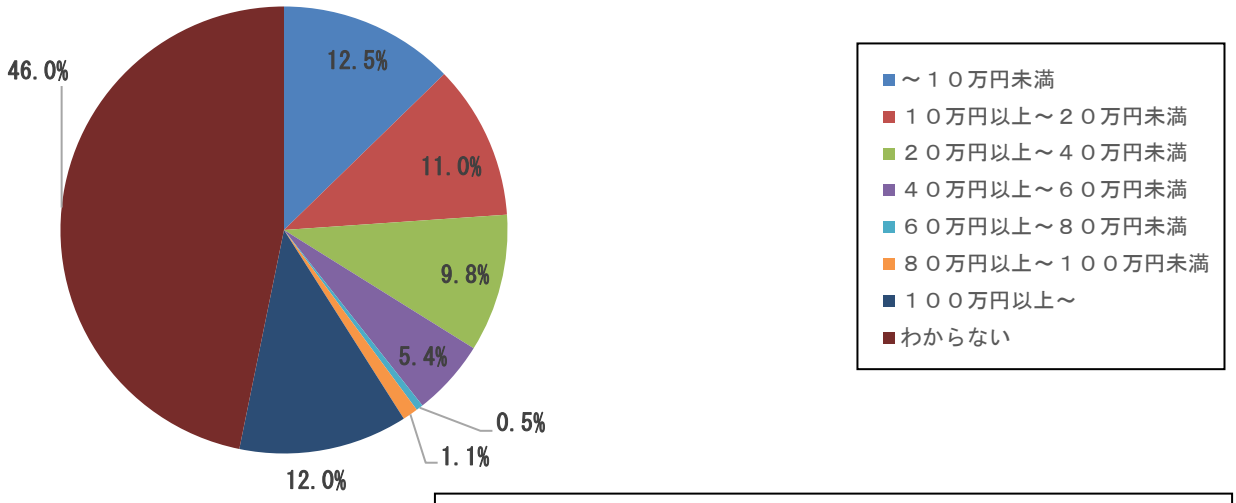
・36.8%の方が、「入居型介護施設を利用」または「介護している（いた）方と同居」して介護を行っていることがわかりました。
・「入居型介護施設を利用」や「介護している方と同居」以外の回答が約６割にのぼりました。



Q5. Q4 において、「入居型介護施設を利用」とお答えした方にうかがいます。入居する際に支払った費用の総額をお答えください。

※複数名介護している（いた）は、施設に入居する際にかかった最も高額な費用についてお答えください。

・入居型介護施設の入居時にかかった費用の総額の平均は、約 74 万円であることがわかりました。
※平均値を算出するにあたり、1 万円未満の回答は 1 万円として計算
・回答の中で最も高額だった金額は、1,000 万円でした。施設により、入居費用の差が大きいことがわかりました。
・一方、約 5 割の方が「わからない」と回答していることから、半数程度の方が入居費用に関して意識していないことがわかりました。

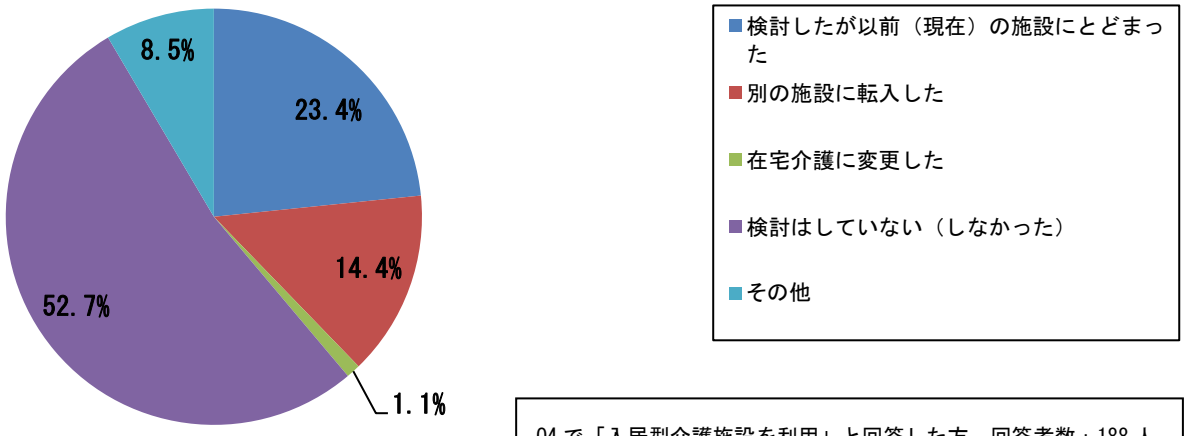


Q4 で「入居型介護施設を利用」と回答した方　回答者数：184 人※無回答 4 人

Q6. Q4 において、「入居型介護施設を利用」とお答えした方にうかがいます。

費用負担が大きいことが原因で、施設の変更や介護形態の変更を検討していますか（しましたか）？

・約 5 割の方は、施設の変更や介護形態の変更を検討していなかったと回答しました。一方、約 4 割の方は施設の変更や介護形態の変更を検討したことがわかりました。
・14.4%の方が実際に別の施設に転入したことがわかりました。



Q4 で「入居型介護施設を利用」と回答した方　回答者数：188 人

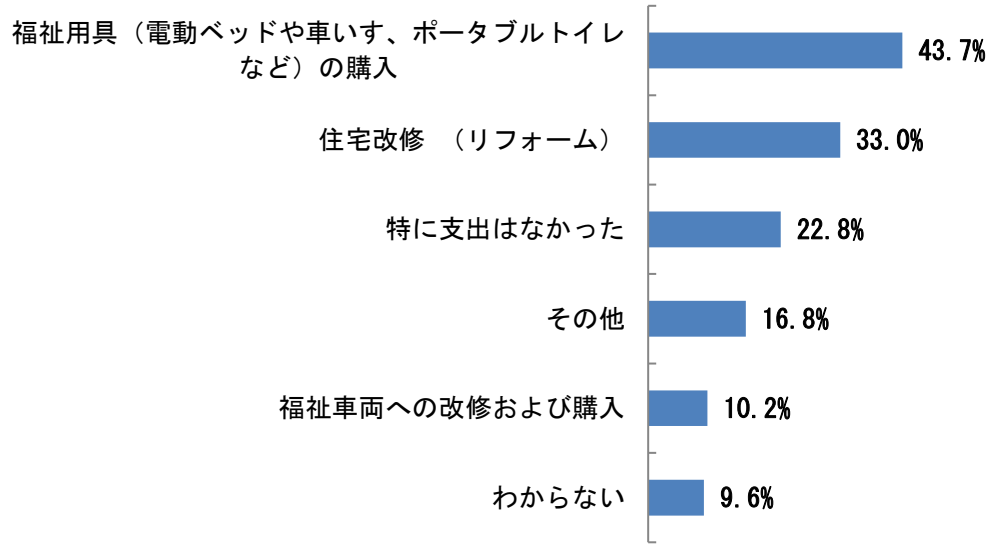
Q7. Q4 において、「介護している（いた）方と同居」とお答えした方にうかがいます。

在宅介護をするにあたり、最初にどのような費用がかかりましたか？

※複数名介護している（いた）場合は、最も重度である（あった）方の状況をお答えください。

（福祉用具のレンタル代金やおむつなど継続的にかかる費用を除きます。）（複数回答可）

・在宅介護にあたり、「福祉用具の購入」や「住宅改修」を行う方が多いことがわかりました。
・約 2 割の方が「特に支出はなかった」ことがわかりました。

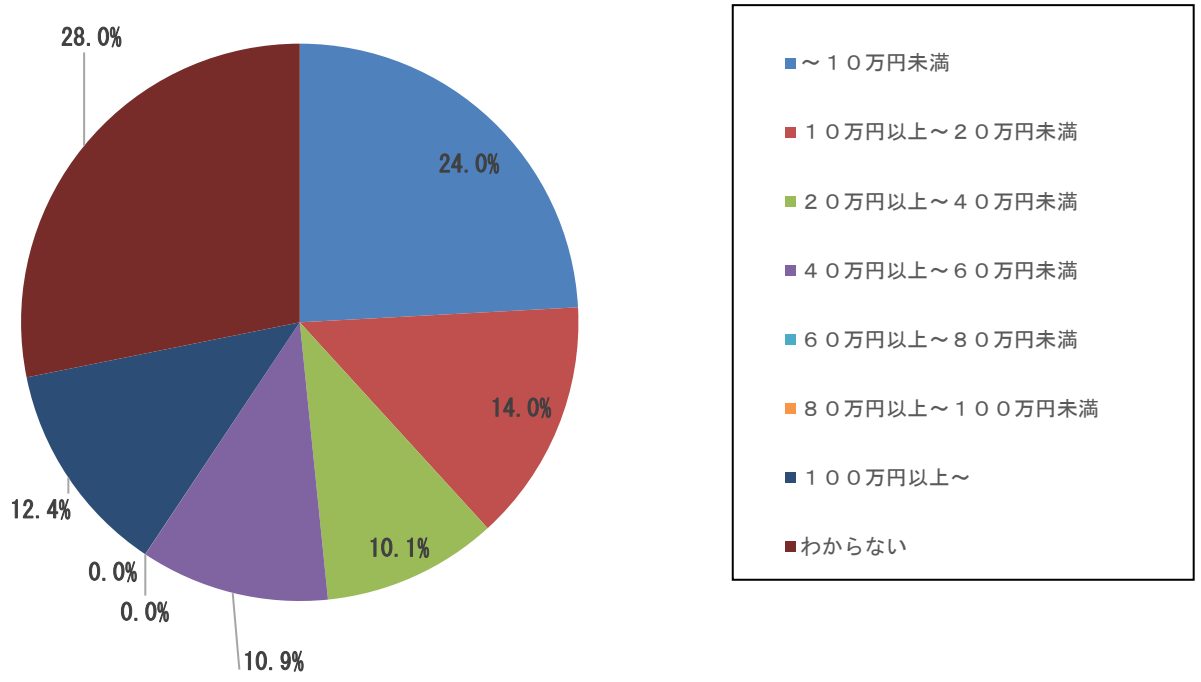


Q4 で「介護している（いた）方と同居」と回答した方　回答者数：197 人

Q8. Q4 において、「介護している（いた）方と同居」とお答えした方にうかがいます。

Q7 で支払った費用の総額をお答えください。

・「わからない」が 28.0%と最も多い回答でした。
・「在宅介護」を行うにあたり、かかった費用は「10 万円未満」との方が多く、次いで「10 万円以上 20 万円未満」でした。
・回答の中で最も高額だった金額は、1,000 万円でした。
・「100 万円以上」と回答した方は 10.9%にのぼり、在宅介護においても経済的負担が発生することがわかりました。
・「在宅介護」における初期費用の平均は、約 64 万円でした。
※平均値を算出するにあたり、1 万円未満の回答は 1 万円として計算



Q4 で「介護している（いた）方と同居」と回答した方 回答者数：197 人

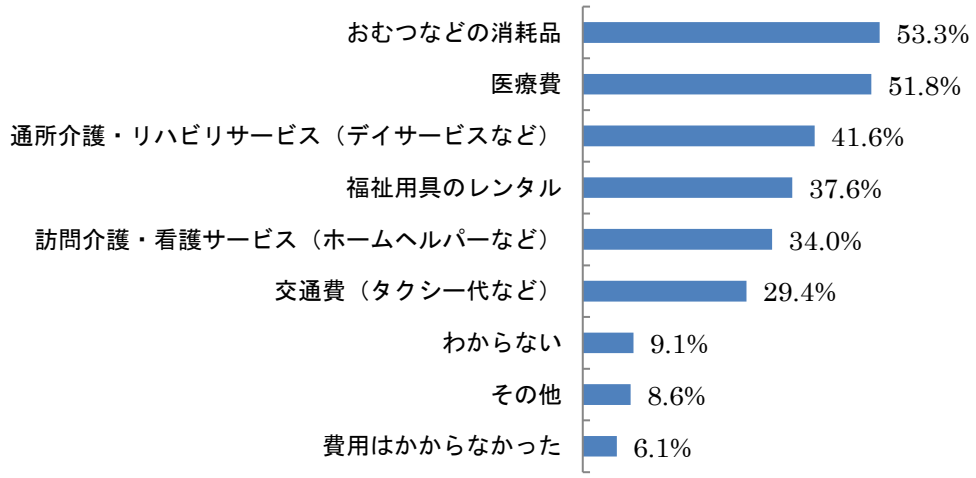
Q9. Q4 において、「介護している（いた）方と同居」とお答えした方にうかがいます。

あなたが介護している（いた）間、月々にどのような費用を支出しましたか。

※複数名介護している（いた）場合は、最も重度である（あった）方の状況をお答えください。

（複数回答可）

・半数以上の方が、「おむつなどの消耗品」や「医療費」の費用を支出していることがわかりました。
・在宅介護に伴い、約 3 割の方が「交通費（タクシー代）など」の費用の支出をしていることがわかりました。



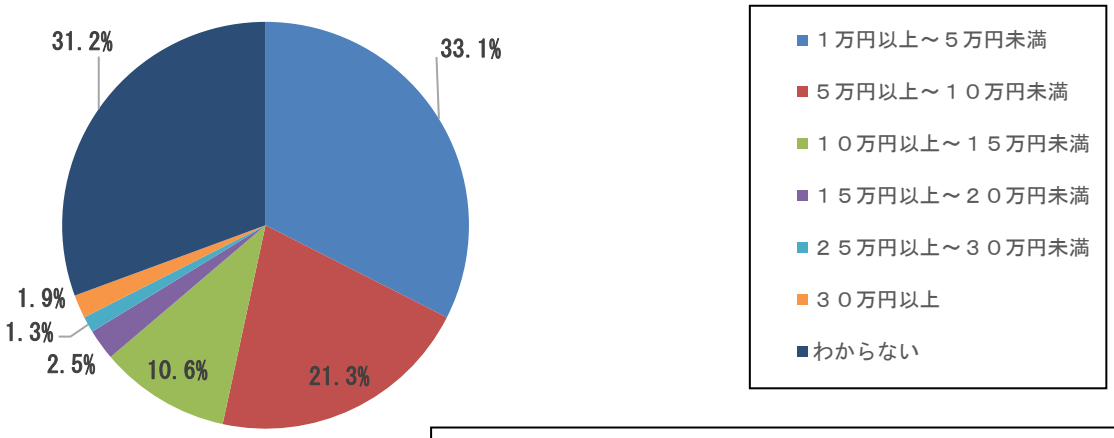
Q4で「介護している（いた）方と同居」と回答した方　回答者数：197人

Q10. Q4 において、「介護している（いた）方と同居」とお答えした方にうかがいます。

あなたが介護している（いた）間、Q9 で支払った費用は月々に平均していくらですか。

※複数名介護している（いた）場合は、最も重度である（あった）方の状況をお答えください。

・月々に平均して約 7.5 万円の費用を支出していることがわかりました。
※平均値を算出するにあたり、1 万円未満の回答は 1 万円として計算
・「在宅介護」にあたり月々にかかった費用が「1 万円以上～5 万円未満」と回答した方が 33.1%にのぼり、「5 万円～10 万円未満」との回答が 21.3%でした。
・「在宅介護」においても月々の一定の経済負担は発生することがわかりました。



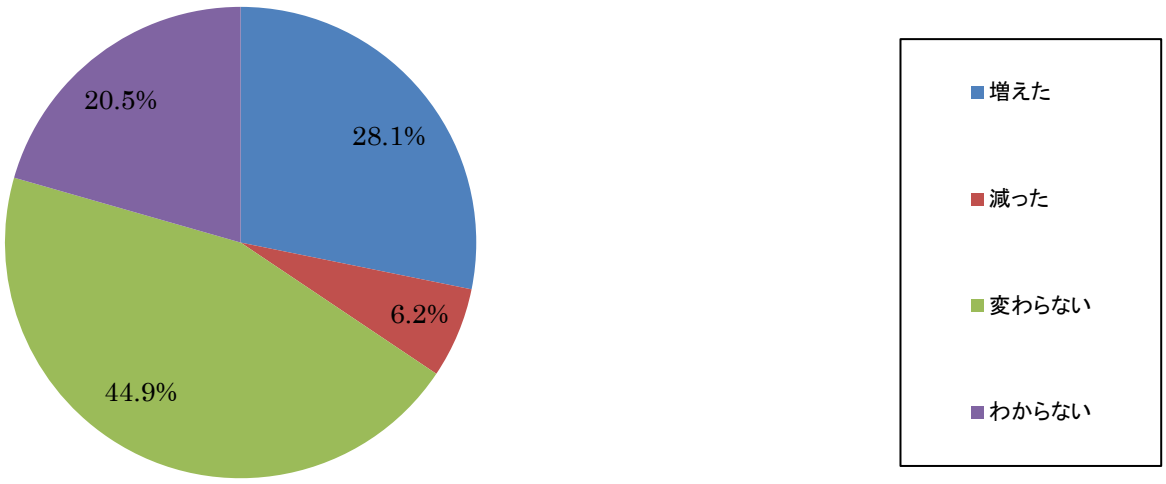
Q4で「介護している（いた）方と同居」と回答した方　回答者数：197人

Q 11. Q4 において、「入居型介護施設を利用」または「介護している（いた）方と同居」とお答えした方にうかがいます。

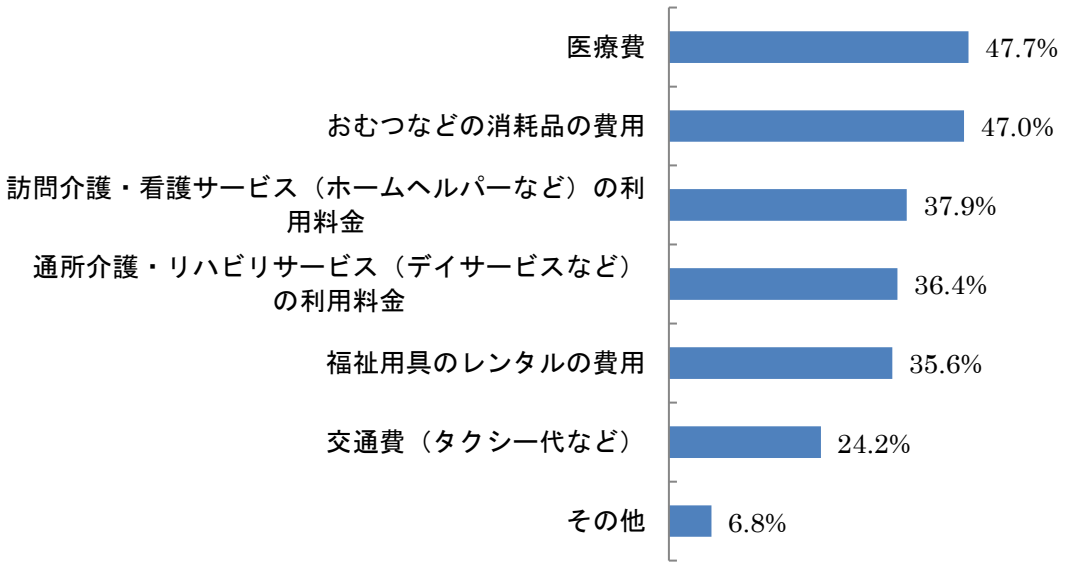
介護期間経過に伴い、1 か月あたりに負担する介護費用の変化はありましたか？

また、介護費用の負担が変化した項目をお答えください。

・44.9%の方は、「変わらない」と回答した一方で、約 3 割の方は介護期間の経過に伴い、経済的な負担は増えたことがわかりました。
・介護期間の経過に伴い「医療費」や「おむつなどの消耗品の費用」の負担が変化することがわかりました。



Q4 で「入居型介護施設を利用」または「介護している（いた）方と同居」と回答した方　回答者数：385 人



Q4で「入居型介護施設を利用」または「介護している（いた）方と同居 」と回答した方のうち、Q11において「増えた」または「減った」と回答した方　回答者数：132人

５．専門家コメント

ＳＯＭＰＯリスクマネジメント株式会社
医療・介護コンサルティング部 上席コンサルタント　泉　泰子

本調査から「介護にかかるお金」について、在宅介護でも少なからぬ費用がかかるということがわかります。入居型介護施設は、費用がかかるというイメージが強いのですが、現在では、初期費用の分割支払い方法や施設のグレードの選択で、在宅介護と初期費用が大きく変わらないことが本調査でも裏付けられています。在宅でよい介護を実施することを考えると、リフォームや介護機器の購入は避けがたく、入居型介護施設のように整った環境を作るための費用は、同じ程度かかるものです。

しかし、初期費用以外では、入居型介護施設は継続的に一定の費用が発生します。月に5万円以下という費用負担の割合が多いデータを考えると、訪問介護・看護など必要なサービスを選択できる在宅介護は、費用のコントロールがしやすいと思われます。介護の方策を単に費用がかかるからということで選択するのではなく、介護する側の状況を考えて選択するべきだと思います。確かに入居型介護施設は、毎月の一定費用は掛かりますが、仕事と両立を考えた場合や、所謂ワンオペ介護の場合など、費用に見合ったメリットがあるのではないでしょうか。介護される方の状況にもよりますが、なかなかそばを離れられないような介護状態では、在宅介護の継続は厳しいものがあります。

本調査で着目すべき点として、要支援・要介護の認定を受けていない状態で介護をされている方が、66.4%もおられることです。介護保険申請は、負担金が少ないということだけではなく、より良い介護をするためのチーム作りの第一歩です。介護サービスをより効率的に受けることで在宅介護の支援となりますし、負担金が少なければより多くのサービスを受けることができます。介護は資金があればより快適にすることができます。また、最近の民間の介護保険などでは、介護保険外のサービスに対し、保険金が使えるというものもあり、心の余裕をもって介護を継続することができるのではないでしょうか。

準備した資金より費用がかかったというデータは、どれだけ費用を用意したらよいか、不安になるものです。どんな介護をしたいかということを事前に考え、介護の専門家に早期に相談しておくことが、思い描く介護ができる環境づくりにつながると思われます。